

平成 20 年 2 月 20 日

各位

会社名 中越パルプ工業株式会社  
代表者名 代表取締役社長 長岡 剣太郎  
(コード番号 3877 東証・大証一部)  
問合せ先 調査委員長 原田 正文  
(電話 03 - 3544 - 1522)

## 古紙を配合した紙製品全体に係る古紙配合率の追加調査について

弊社は、先般多くの製品で公称古紙パルプ配合率と実際の配合率に乖離があることをご報告いたしました。この事実を重く受け止め、内部統制委員会を開催し再発防止に向けた対策の検討を行うとともに、社内に「古紙配合率調査委員会」を設置し原因の究明を含めた詳細調査を実施いたしましたのでご報告申し上げます。

### 1. 調査委員会の構成および調査項目

調査体制

対象となる製品の受注～製造～販売のラインに関わらない部門から委員を選出し調査委員としています。

委員長 常務取締役兼執行役員（企画管理部、総務人事部、原材料部、内部監査室担当）

原田 正文

委員 執行役員 内部監査室長

金井 信彦

内部監査室副室長

大村 潤一

総務人事部長

長谷川 正弘

総務人事部副部長

荒屋 英治

企画管理部長

藪田 康夫

企画管理部調査役

秋永 吉男

原材料部担当部長

植松 久

技術部環境担当部長

川井 達行

社外からの参加 なし

但し、本件の反省に基づき、現在、全社的にコンプライアンス体制の総点検、体制確立の為の諸対策の検討を進めておりますが、新たな取り組みの一つとして今後は定期的実施しております労使懇談会にコンプライアンス部会を設置し、労使の相互監視体制による再発防止に向けた体制強化を図ることとしております。

## 調査項目

- (ア) 製品登録までの社内手続きフロー
- (イ) 公称古紙配合製品として生産・販売している製品に関する品質検討書、製造標準書、操業記録等の社内書類による調査および製造部門である工場、営業担当者からの聞き取り調査により以下ご報告内容についての確認を行いました。併せて、今後の社内手続き見直し、再発防止のための具体的な対策の検討を行っております。

終了時期      2月29日(金)目標

## 2. 調査結果

各製品の古紙配合率、供給開始時期、製造工場、生産ライン等については別表の通り確認いたしました。

乖離状況のお客様へのご報告と対応

古紙配合率乖離製品(古紙配合率の実態が公称と乖離していた製品)に関し、製造・供給を中止しております。また、代理店様に対しても供給中止を申し入れしております。

- (ア) 代理店様のご協力も仰ぎながら需要家様に実配合率をご報告申し上げます。
- (イ) 在庫品につきましては、実配合率をご承知の上、需要家様から要請された場合には代理店在庫・弊社在庫ともに供給することにしております。特に、古紙配合率を数値で記載している弊社ブランド印刷用紙につきましては、古紙配合率を表すラベル表示の『100』の文字をマジック等で消してから出荷することにしております。その他の需要家様と取決めた品名(ラベル)表示につきましては需要家様にご判断いただいております。
- (ウ) 製造につきましては、早急に需要家様と協議を行い、新たに古紙配合率・紙質を取り決めた上で開始することにしております。
- (エ) 弊社ブランド印刷用紙につきましては、平成19年12月に古紙配合率乖離製品の製造を終了しており、1月より乖離のない製品を製造・販売しております。需要家様に対し、1月からの乖離のない製品での使用検討を依頼しております。
- (オ) コピー用紙につきましても、実配合率をご報告申し上げ、需要家(販社)様にご判断をお願いしております。コピー用紙につきましてはケース内の包み毎にラベルや包装紙に配合率やエコマーク等が表示されているため、消費地にて表示変更し再梱包することは困難であります。そのため

弊社工場に返品、再梱包 弊社工場在庫品については「配合率乖離」のシール貼付もしくは再梱包 断裁用原紙在庫につきましては古紙配合率等の表示のない資材にて梱包、等にて対応しております。

(カ) 包装用紙およびその他の製品につきましても、実配合率をご報告申し上げ、実需要家様にご判断をお願いしております。在庫品につきましては、実配合をご承知願った上で表示についてはマジック等で消してから出庫させて頂いており、現在のところ返品のご要請は殆どない状況です。

乖離の原因、乖離の事実を認識した役職員の範囲、時期、経営トップが知った時期

弊社においては、お客様から営業担当への新規製品ご要望に対し、まず「品質検討書」によってご要望の品質等について対応の可否を工場へ打診を行う社内ルールとしていますが、工場の検討結果で所定の古紙パルプ配合率ではご要望の品質が確保できないとされた場合も、販売シェア維持のため古紙の配合率を乖離させご要望の品質を優先した製造標準書が作成され生産が行われていました。また、営業関係者の聞き取り調査でも乖離の事実を認識しながらも販売を優先した旨の確認をいたしました。

このことから、古紙配合率が乖離していない一部の製品以外の古紙配合製品の大半が供給開始当初から基準を満たしていなかったと考えられます。各製品の供給開始時期は、別表調査結果の通りです。

乖離の事実については、営業部門は本部長以下担当者まで、工場では工場長以下品質設計、製造部門の管理職まで該当製品の生産開始時あるいは乖離が行われた時期より承知していたと考えられます。また、製造標準書の中には公称古紙配合率を記載したものがあり、その標準書を使用していた原料調合担当部署の係員も承知していたと考えられます。

経営トップの出席する通常の社内の会議で古紙パルプの配合率についての議事が取り上げられる事は無く具体的に認識する機会はありませんでしたが、平成 18 年 4 月開催の常務会において古紙パルプ製造設備の品質対策に関する設備投資審議を行っており、当時の再生紙生産量と古紙パルプ使用量の実態から薄々認識はしたものの、コンプライアンスに反する重大なリスクとして捉えられず、実態調査等の指示が行えませんでした。

これまでの社内での古紙配合率等の品質の確認の制度、体制、方法等

工場での生産は製品の強度・白色度・チリ等の品質確保を優先させるため、原料の品質変動等によって各パルプの配合率を変更するケースがあります。出来上がった製品は製造現場での自主検査と併せ技術環境部技術研究課による品質チェックを

経て出荷され、製品出荷の最高責任者は工場長となっています。

製造現場の操業記録として毎日生産される各製品に係る各種パルプの配合率等に関するデータは作成されておりますが、最終製品の品質確保優先の制度・体制となっているため、従来より古紙パルプ配合率確認の制度・体制はありませんでした。古紙の購入・消費量、古紙パルプの生産量と設備能力とのチェックは月次決算等で行っていました。

これまでの納入先への品質保証に関する対応

再生紙として販売していた製品のうち弊社にてエコマークの認定を受けたものについては見本帳やラベルにエコマークを表示しておりました。

認定を受けていない製品につきましては製品名に「100」や「70」という数字を付けることで公称古紙配合率を示していました。白色度など古紙配合率以外の規定もあるため、グリーン購入法やエコマーク認定の対象となるか否かのお問い合わせには個別にご回答申し上げておりました。

お客様とのお約束で古紙配合率を決定した製品については、お客様から古紙配合率を証明する文書提出のご要望があった場合に個別に「古紙配合率証明書」を作成するか「紙質試験表」に古紙配合率の記入欄を追加してご提出していました。いずれの場合も古紙配合率は公称配合率を記載していました。

これらの文書は、主に工場技術環境部長名で作成されていますが、営業本部技術サービス部長名でも作成されています。

### 3. 今後の、社内での古紙配合率の確認の体制、方法

古紙パルプ配合率確認の管理方法、体制、検証方法および品質保証

日報での古紙パルプ配合製品生産報告書、古紙受払報告書の作成を制度化し、月次ベースでも検証を行う体制を3月中に整備いたします。また、本年度より定例実施予定のコンプライアンスに関する内部監査により検証することといたします。

再発防止のための歯止め策

新規製品のご要望を頂いてから製品登録、生産開始までの従来の社内手続きルールには不備がありますので、関与の部門を増やすとともに検討の経過（最終決定者の特定も含めて）が記録として残せるよう見直しを行います。

また、該当製品生産に当たってお客様に保証した所定の配合率が達成できない場合は生産を中断する等の操業標準を新たに作成いたします。

いずれも3月中に整備いたします

#### 4. 今後の品質保証および表示の適正化

本調査に基づき 2 月末までに古紙パルプ設備の生産能力、抄紙ラインの生産バランス等を勘案し、常時確実に実行可能で今後も保証できる古紙パルプ配合率の社内での再確認を行い、お客様のご確認・ご承認を頂きながら進めていくことといたします。品質保証の方法については個別にご相談をさせて頂く所存です。

#### 5. 適正化後のラインナップ

当面、別表のうち古紙パルプ配合 0 % 品 (10,348 トン / 年) を除く製品合計 9,929 トン / 月となります。

#### 6. 処分

本件は、全社的に確認した方針・戦略等に基づいて判断・実行されてきた訳ではありませんが、問題の所在を薄々懸念しながらも、重大リスクとして取り上げ毅然として是正を行い、コンプライアンス優先の社内体制を構築出来なかった事により結果として会社に対する社会の信頼を大きく失墜させる事となったのは経営の責任として重く認識し、下記の通り処分することを決定いたしました。

処分の内容	社長	50%減俸	3ヵ月
	その他の取締役	30%減俸	3ヵ月
	執行役員	20%減俸	3ヵ月

#### 7. 今後のコンプライアンス遵守の体制について

今般の古紙パルプ配合率乖離に関しお客様を始め業界や関係機関の皆様に対し多大なご迷惑をおかけすることになりましたが、本件は弊社のコンプライアンス遵守の体制が実効的に機能していなかったことを実証するものとして猛省の上に立ち、再びご信頼いただけるようグループ挙げて実効あるコンプライアンス体制の再構築に以下の通り取り組むことといたします。

##### 全社的なコンプライアンス教育の徹底

イ. 問題の所在を薄々懸念しながらも重大リスクとして取り上げ毅然として是正を行ない、コンプライアンス優先の社内体制を構築できなかった事により、結果として会社に対する社会の信頼を大きく失墜させることになったのは経営の責任であり、まず経営の意識改革が大前提であるとの認識に立ち、年度内に役員の社外講習会への参加を義務付けることとし、現在計画策定中であります。

- ロ． 階層別従業員教育のプログラムにコンプライアンスに関する内容を組み込みます。
- ハ． 部門別にコンプライアンス担当者を設置し裾野を広げた教育体制を組みます。

定着、歯止めのための対策

- イ． 内部統制推進部会(グループを含めた既存の体制)の組織を職場単位まで細分化するとともに、部門別担当者から毎月コンプライアンス報告書の提出を義務付ける等の制度化を準備中です。
- ロ． 定例の労使懇談会(年1回6月頃に開催)にコンプライアンス部会を設置し、労使による監視体制を敷くことといたします。
- ハ． コンプライアンスに関する内部監査を制度化します(本年から実施)。
- ニ． 受付窓口を増やす等内部通報制度の見直しの可否を検討します。

以 上

別表 調査結果

調査委員会での調査の結果、古紙配合率に乖離のある再生紙は下記の通りです。  
 尚、先般(平成20年1月21日)公表いたしました古紙パルプ実配合率に確認不足の為の  
 誤りが発見され、また、乖離のある再生紙のリストから包装用紙(RG 純白)及び紙器用  
 板紙の一部が洩れていたことが判明いたしましたので、お詫びして訂正申し上げます。

【グリーン購入法対象製品】

区 分	品 種	生産工場	抄紙機 No	古紙配合率(%)		生産開始 時期	販売量 (T/年)	
				公称	実配合			
印刷用紙	非塗工紙	上級紙		該当なし				
		中級紙(RG雷鳥上質100)	高岡(能町)	6	100	30~50	1999/1月	8,124
		広報他	高岡(二塚)	2	100	12~45	2003/4月	4,039
	微塗工印刷用紙(ありその他)	川内	6	80~100	15	1999/11月	2,581	
	塗工印刷用紙	RGシャトン100	川内	6	100	15	2001/7月	8,264
RG雷鳥コート100		高岡(能町)	1C/M	100	5	2000/4月	3,840	
RG雷鳥マット100		高岡(能町)	1C/M	100	4	2001/3月	4,560	
情報用紙	PPC用紙	高岡(能町)	6	100	30	1999/5月	3,996	
包装用紙	未晒包装用紙	RG半晒	川内	3	40	0~5	1990年以前	1,944
	晒包装用紙	色クラフト	川内	1,2,3,8	70	0~5	1999/4月以降	7,666
		封筒用ケント	川内	2	70	5	2004/12月	281
合 計							45,295	

(内0% 配合 : 3,617T)

【グリーン購入法対象外製品】

区 分	品 種	生産工場	抄紙機 No	古紙配合率(%)		生産開始 時期	販売量 (T/年)		
				公称	実配合				
印刷用紙	非塗工紙	上級紙	封筒用紙	川内	4, 8	50~100	0~5	1999/5月	5,484
			カンダ-用紙	川内	2,4,8	70	3~5	2001/3月	3,285
			のし紙	川内	2,8	50	0~5	1992/8月	1,252
			学参・書籍	川内	2,4,8	30~100	0~5	1989/4月	624
			その他	川内、能町	川内1,4,8 能町6	70~100	0~25	1992/8月	1,205
		中級紙	ノート	川内、能町	川内1,2,4,8 能町6	30~100	0~25	1993/8月	13,608
			学参用紙	川内	1,2,4	30~35	3~7	1992/2月	720
			その他	川内、能町	川内1,2,4,8 能町6,N1	30~100	0~50	1997/11月	6,407
		微塗工印刷用紙(ありその他)	川内	6	35~100	5~15	1994/7月	8,892	
		塗工印刷用紙	再生エミネ他	川内	6	40~100	10	1992/8月	1,380
	再生シャトン他		川内	6	50~100	5~15	1991/12月	3,228	
高白コート	高岡(能町)		1C/M	30~100	0~4	2003/6月	11,112		
その他	高岡(能町)		1C/M	10~100	0~15	2002/1月	2,184		
情報用紙	PPC用紙	川内、能町	川内4、能町6、N1	70~100	1~30	1994/2月	12,980		
包装用紙	未晒包装用紙	RG両更クラフト	高岡(能町)	3	30	0~5	1995/12月	1,680	
		RG半晒	川内	3	40~100	0~10	1997/4月	3,528	
	晒包装用紙	RG晒クラ	川内、能町	川内1、能町3,6	30~70	0~13	1990年以前	3,936	
		RG純白	高岡(能町)	1	30~67	0~2	1993/11月	708	
		その他	川内	2	70	5	2002/3月	97	
紙器用板紙		高岡(能町)	5	5~70	0~20	1994/12月	1,896		
合 計							84,206		

(内0% 配合 : 6,731T)